Strix 10：107-114（1991）

埼玉県大久保農耕地におけるムナグロの渡来状況

渡辺朝一[1]

はじめに

埼玉県南の荒川流域（左岸）に位置する大久保農耕地は，埼玉県下最大のシギ・チドリ類の渡来地である．とくにムナグロ *Pluvialis dominica* の渡来数が多いことで知られており，すでにいくつかの報告もある（渡辺 1982，1983，無記名 1982，石井ほか 1984，松田 1984）．筆者は1983～1988年にかけ，ムナグロの個体数の季節変動や換羽状況などを明らかにするため，調査を行なった．

調 査 地

調査地である大久保農耕地は，埼玉県大宮市と浦和市の荒川河川敷左岸堤防内外に位置し，区画整理が進んだ水田である．おおまかな環境をFig. 1に示した．堤防内は横堤によって仕切られ，ほぼ同じ面積（約80ha）の水田地帯が3区画ある．この3区画とムナグロがよく利用する堤防外の1区画を合わせ，おもな調査地とした．また，ムナグロは芝生の運動場となっている1区画，川沿いのゴルフ場もよく利用していたので，ムナグロを見落とさないよう，これらの地域も調査地に含めた．

調査方法

調査は，1983年秋の渡来シーズンから1988年春の渡来シーズンまで行なった．従来の調査により，大久保農耕地におけるムナグロの渡来時期は，4～5月と8～10月であるとされていた．ゆえに，初認，終認を確実に記録するため，3月下旬～6月上旬，および7月下旬～11月下旬をおもな調査期間とし，原則として週1回行なった．それ以外の時期にも，ムナグロの渡来状況に合わせ，適宜調査を行なった．

調査にあたっては，7倍の双眼鏡と25倍の望遠鏡を使用し，調査地をくまなく回ってムナグロの全個体数を記録した．また，換羽状況，秋には成鳥，幼鳥の別を記録した．換羽状況については，顔，のど，腹部など，繁殖期に黒色に換羽する体の前面をおもに観察した．上記の部分についてすべて白色の場合は冬羽，一部でも黒色羽が認められれば中間羽，完全に黒色の場合は夏羽として3段階に分類した．

結果および考察

ムナグロの渡来は，4～5月および8～11月にかけて見られた．4～5月にかけての渡

1991年11月3日受理

1．〒950 新潟市長潟2-17-8 NNトピア202

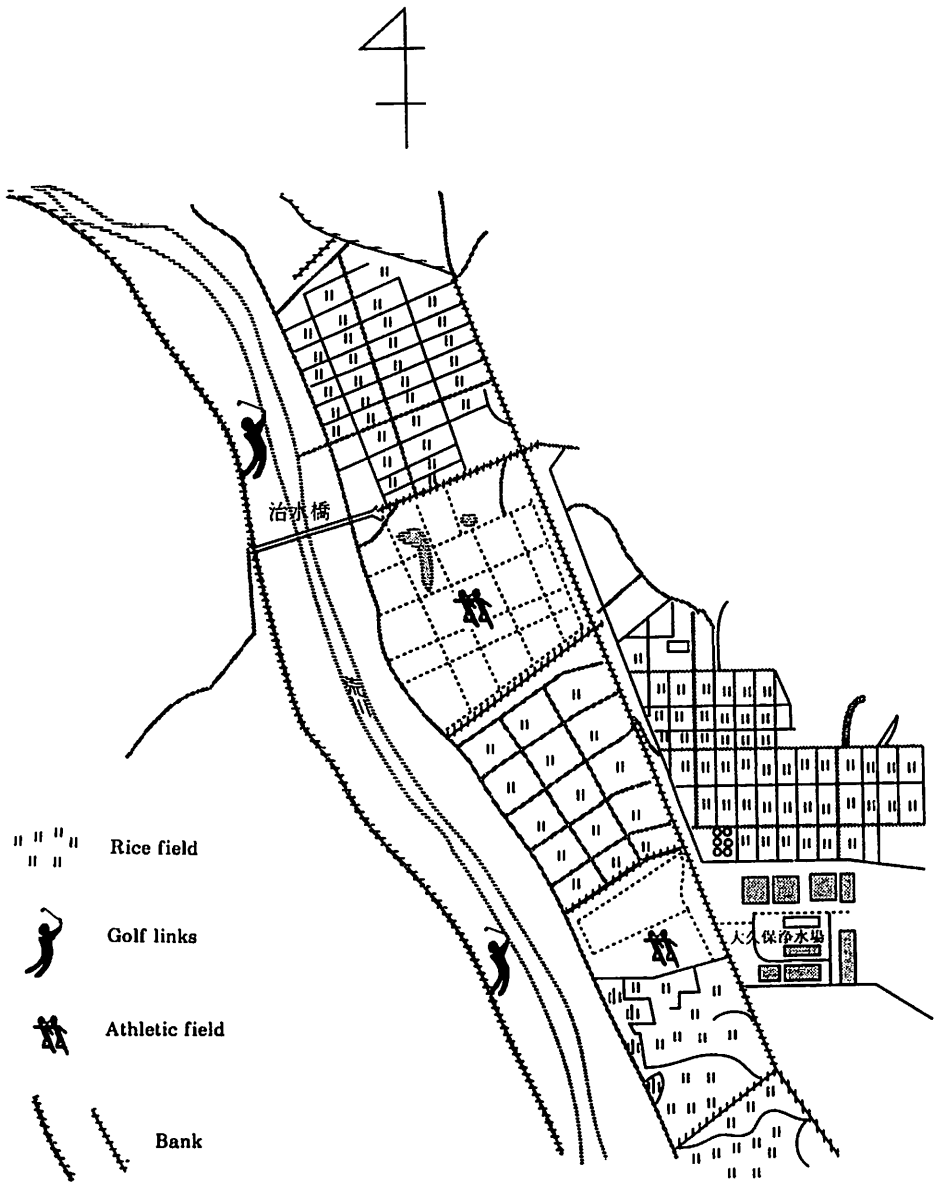

Fig. 1. The study area.

来を「春の渡り」，8月～11月にかけての渡来を「秋の渡り」と見なした．

1．春の渡り

春の渡りは，さらに下記の3期に分けることができた（Fig. 2）．

①渡来初期　3月末，もしくは4月初頭の初認から4月20日ごろまでの時期である．一部の湿潤な水田にだけ見られ，群れで行動した．渡来当初は1～10羽，4月20日ごろで多い年で200羽であった．

②渡来最盛期　4月20日ごろ～5月15日ごろまでの時期である．水田が田植えのため広く

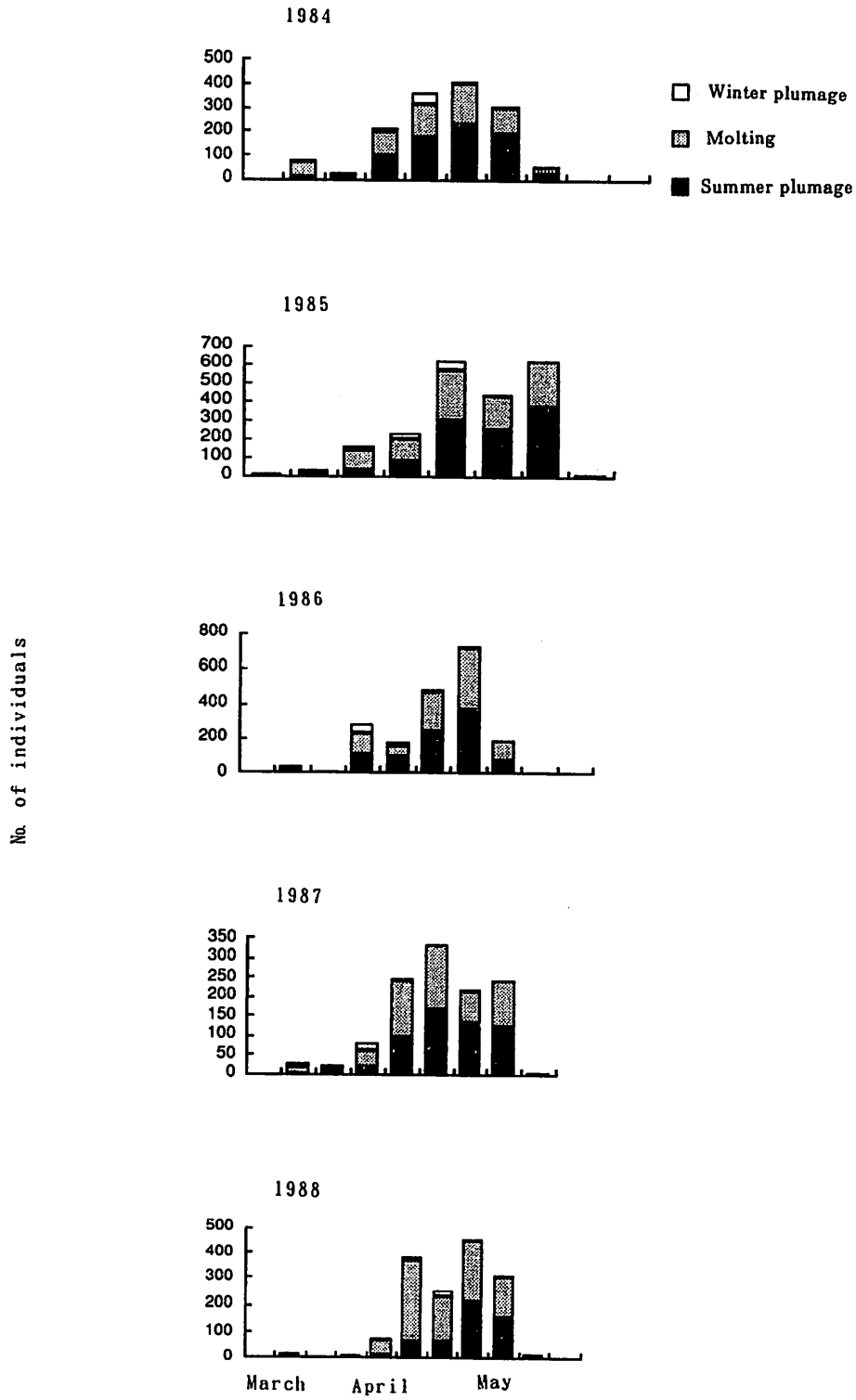

Fig. 2. seasonal changes in the number of the Pacific Golden Plover in spring.

注水されるのにともない，ムナグロの渡来数は一気に増加し，群れを解いてバラバラで行動するようになった．4月末～5月上旬に1日あたりの最大個体数が記録された．最大個体数は多い年で722羽（1986年），少ない年で333羽（1987年）と，年により変動が大きかったが，その原因は不明である（Fig. 3）．

③渡来後期　5月15日ごろから渡去までの時期である．まだ数100羽が観察される年もあるが，群れで休息しているところを見る機会が多かった．5月20日過ぎには一気に渡去してしまった．

渡来時期に関しては，5年間でさしたる変化を認められなかった．

換羽状況については，渡来初期から冬羽は少なく，夏羽と中間羽で90%近くを占めてい

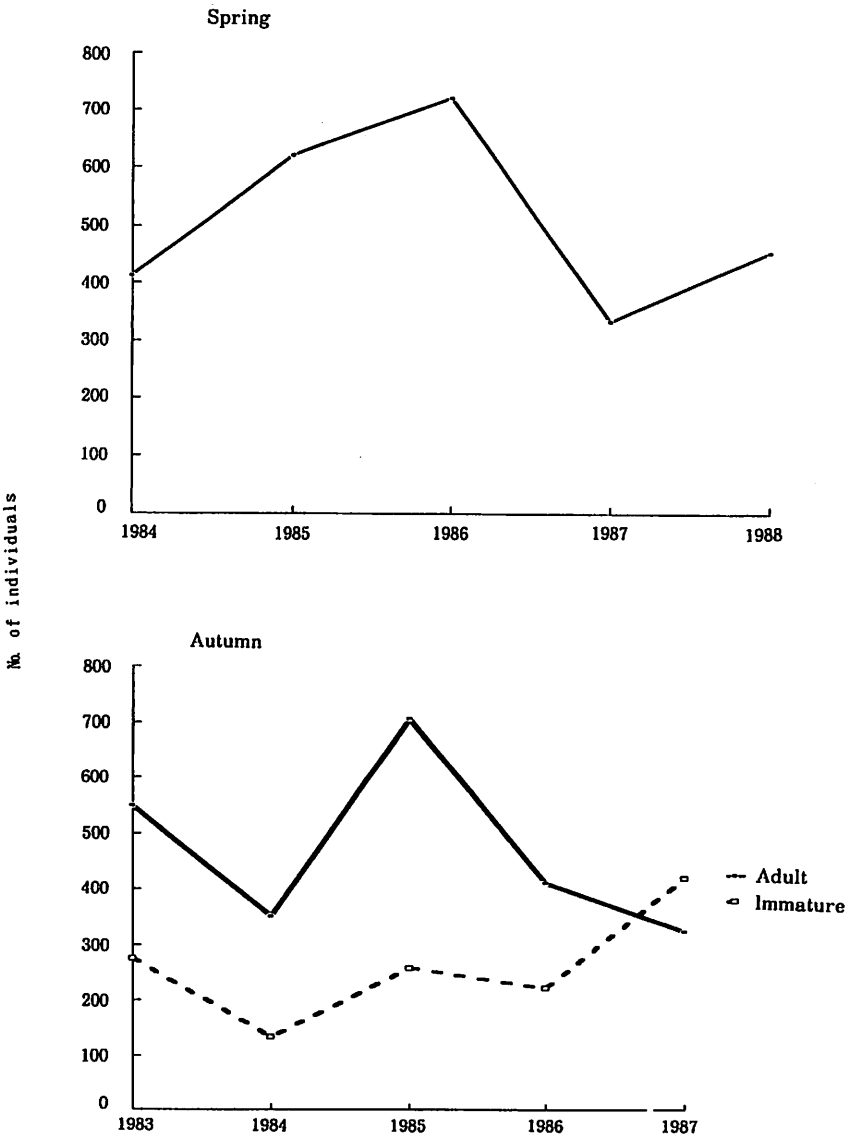

Fig. 3. Fluctuation in the maximum number of the Pacific Golden Plover.

た．さらに，5月に入ると夏羽と中間羽で95%以上を占めていた．4～5月と時期が遅くなるにしたがって夏羽の占める割合が増加したが，それでも夏羽と中間羽の割合は10：7前後であった．石川（1982）によれば，同属のダイゼンでは5月においても総個体数の10%前後の冬羽が確認されている．また，5月中旬になると夏羽と中間羽の割合は2：1にもなる．この例に比べると，大久保農耕地のムナグロは中間羽が多くて冬羽が少ないということになる．

2．秋の渡り

秋の渡りは下記の5期に分けることができた．秋の渡り時には，春と異なり密集した群れで行動していた（Fig. 4）．

①成鳥渡来初期　8月初旬（7月下旬）の初認から8月20日過ぎまでの時期である．成鳥が，夜間，芝生の運動場に採食のため飛来した．これらの個体はおもに夕刻に飛来し，朝には飛去してしまった．1980～1983年ごろまでは昼間も芝生の運動場で採食したり休息したりする個体が見られたが，1984年以降は昼間にはほとんど見られなくなった．個体数は初認時の1～数羽から，20日ごろには200羽以上に増えた．昼間の生息地は不明であった．

②成鳥渡来最盛期　8月下旬～9月上旬である．稲刈りが開始されると刈田に成鳥の大群が降りた．成鳥の1日あたりの最大個体数は，多い年で721羽（1985年），少ない年でも324羽（1987年）が見られた（Fig. 3）．

③成鳥渡去・幼鳥渡来期　9月中旬～20日すぎまでの時期である．成鳥が急速に数を減じ，当年生まれの幼鳥が渡来した．9月中旬はこの端境期であり，個体数は最も少なかった．

④幼鳥渡来最盛期　9～10月，稲刈りの終了した刈田に，幼鳥の群れが渡来した．幼鳥の1日あたりの最大個体数は多い年で420羽（1987年），少ない年で133羽（1984年）であった（Fig. 3）．幼鳥の個体数のピークは，10月上旬（1984年，1985年），中旬（1986年），下旬（1983年，1987年）と，年によってばらつきがあった（Fig. 4）．

⑤幼鳥渡去期　10月下旬～11月，幼鳥群はしだいに個体数を減じ，11月には完全に渡去した．

成鳥は5年間の渡来数にばらつきがあった．稲刈りの時期は，稲の生育が順調な年と遅れ気味の年とで，約1週間程度の差がある．総じて，稲刈りの時期が早い年のほうが，渡来数が多かった．また，渡来数は総じて減少傾向にあるといえる．幼鳥は渡来時期が遅いため，稲刈りの進行度には影響を受けなかったが，刈田の湿潤度が個体数を左右するひとつの要因であると思われる．

渡来時期に関しては，成鳥・幼鳥ともに5年間で大きな変化は認められなかった．渡去時期に関しては，ムナグロの採食に適した湿潤な刈田が遅くまで維持された年は遅かった．1987年のように12月まで成鳥が観察された年もある（Fig. 4）．

換羽状況については，8月に見られたすべての個体が羽のすり切れた中間羽の成鳥で，夏羽や冬羽はまったく見られなかった．春季に見られた中間羽とは，羽がすり切れている点で区別できる．中間羽の成鳥は，大部分が9月中旬までには渡去してしまったが，ごく少数が10・11月にも見られた．このうち，換羽が進んで腹部の黒色部を欠く個体もごく少数見られたが，背面の換羽は終了していなかった．

9月10日前後に渡来する幼鳥は，羽毛がほとんど痛んでおらず黄金色が美しかった．当然腹部に黒色部のない冬羽型であり，羽縁がすり切れている中間羽であるこの時期の成鳥

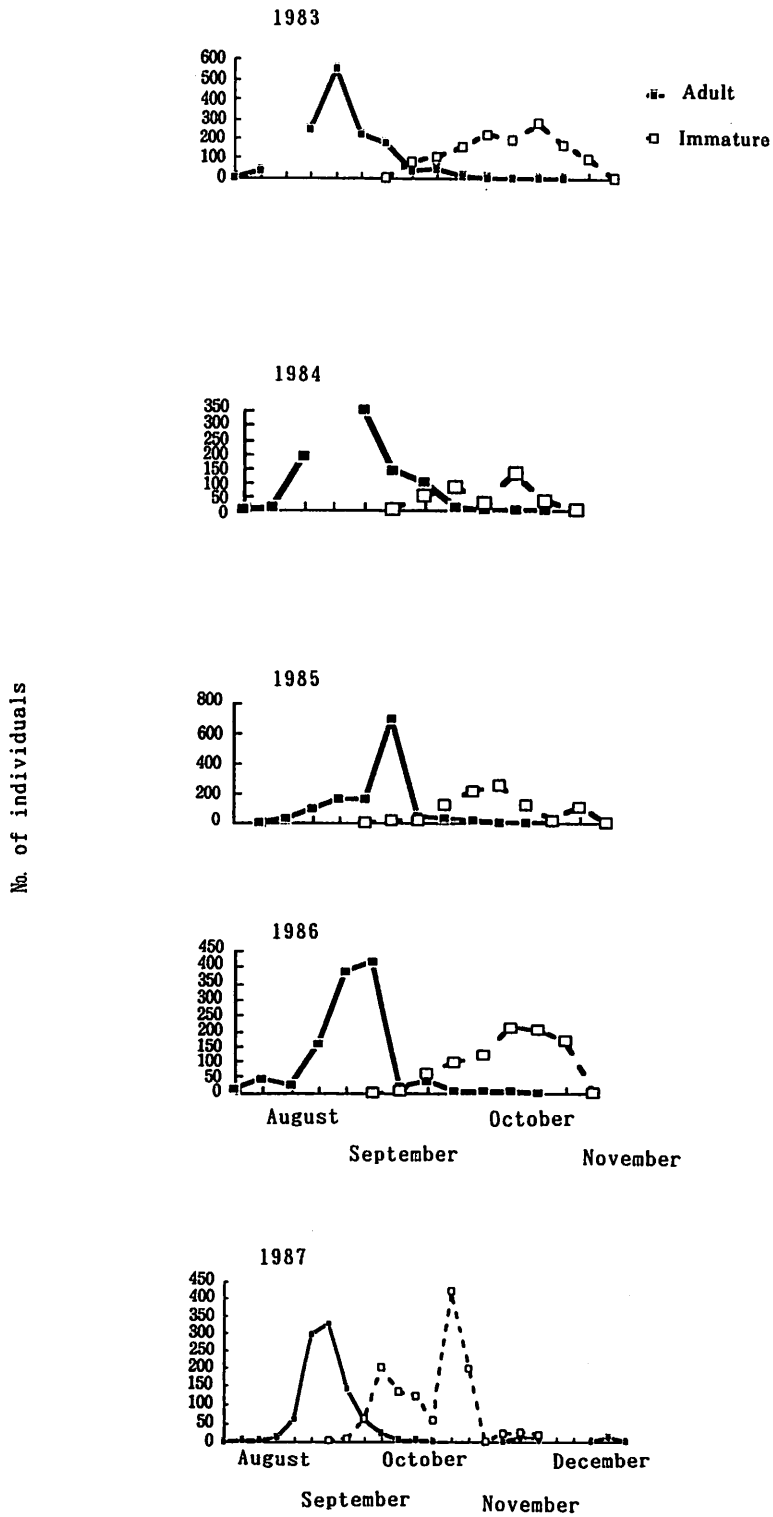

Fig. 4. Seasonal changes in the number of the Pacific Golden Plover in autumn.

とは容易に識別できた.

9月下旬になると，幼鳥の羽色パターンで黄金色味を欠く著しく白っぽい個体も出現した．黄金色味の強い個体と，白っぽい個体の間にはいくつかの中間的な黄色味をもつ個体が見られたので，筆者は羽縁の黄金色がしだいにあせていくことによって白っぽくなるものと考えたが，この点については今後の調査を要する.

要　約

1．埼玉県大久保農耕地において，1983年秋季～1988年春季まで，春季と秋季を中心にムナグロの個体数，換羽状況，成・幼鳥別の渡来状況などを調査した.

2．春季にはおもに4月上旬～5月下旬まで見られた．4月下旬～5月中旬に渡来のピークがあり，1日あたりの最大個体数は，多い年で722羽，少ない年で333羽が記録された．夏羽と中間羽で全個体数の90%以上を占め，冬羽はごく少なかった.

3．秋季には，おもに8月上旬～11月上旬まで渡来が見られた．成鳥はおもに8月上旬～9月上旬に渡来した．9月上旬に渡来のピークがあり，1日あたりの最大個体数は多い年で721羽，少ない年で324羽が記録された．成鳥のすべてが中間羽であった．幼鳥は9月中旬～11月上旬に渡来した．10月に渡来のピークがあり，1日あたりの最大個体数は多い年で420羽，少ない年でも133羽が見られた．概して成鳥の個体数より少なかった.

引用文献

石井智・海老原美夫・西城戸司．1984．浦和市附近の野鳥 浦和市立郷土博物館研究調査報告書第11種：5-17.

石川勉．1982．谷津干潟におけるダイゼンの羽色変化について．Strix 1：24-29.

松田喬．1984．秋ケ瀬の野鳥．埼玉県立浦和北高等学校研究紀要4：78-91.

無記名．1982．荒川流域ムナグロ渡来地の危機．野鳥さいたま 51：8-9.

渡辺朝一．1982．浦和市郊外に渡来するムナグロ．野鳥さいたま 43：8-11.

渡辺朝一．1983．大久保農耕地のシギチドリ類．著者印刷.

Changes in the number of migrating Pacific Golden Plovers *Pluvialis dominica* at Okubo rice field, central Japan

Tomokazu Watanabe[1]

1. The seasonal change in the number of migrating Pacific Golden Plovers was studied at Okubo rice field in Saitama Prefecture, central Japan, 1983-1988.

2. In spring, the plovers were observed from early April to late May. The peak was from the late April to mid-May. 90% of the plovers were in summer plumage or in molting.

3. In autumn, the plovers were observed from early August to early November. Adults were observed from early August to early September and reaching the peak in early September. They were in the molting stage. Immatures were observed from mid-September to early November, and reaching the peak in October.

1. Nagata 2-17-8-202, Niigata-shi, Niigata 950